

京都発  
脱炭素ライフスタイル  
推進チーム

京創ミーティング

第3回会議



# 本日の内容

- 
- 1 次第説明
  - 2 ワーキンググループ（WG）の説明
  - 3 テーマ別WGの報告
    - 消費行動WG
    - 住まいWG
    - つながりWG
  - 4 市民ワークショップの報告
  - 5 非公式ビジョン対話の報告
  - 6 令和4年度京都市予算の説明
  - 7 ビジョン修正案・ビジョンイメージ図
  - 8 グループディスカッション（ビジョンキャッチコピー）
  - 9 次回の案内
-

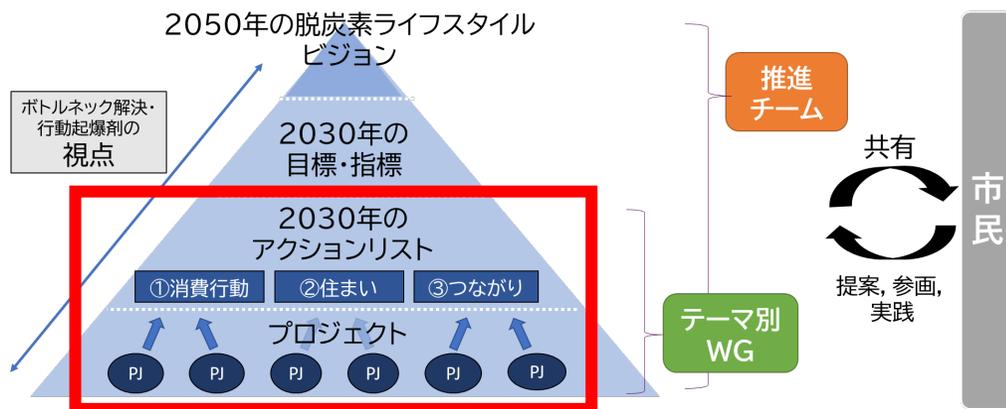
# ワーキンググループ（WG）について

# テーマ別WG結成の目的, 活動内容

## 目的

- 2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民の行動変容の促進に向けた選択肢を社会に生み出す。

【京都市の委託事業ではなく、ビジネスとして採算をとりながら持続可能な形で運営できるものを目指す。】



## 活動内容

【第1フェーズ】 各WGメンバー数：5～10名

(1) 市民のみなさまに2030年までに実践いただきたいアクションリストの検討

(2) プロジェクトの方向性検討・先駆けプロジェクトの実施

- 市民のアクション（1）が広がるための選択肢を提供するため、市民、事業者及び団体等が連携しながら実践するアイデア・仕掛け（プロジェクト）の方向性を検討
- 他に先駆けてスタートするプロジェクト（先駆けプロジェクト）の実施

【第2フェーズ】 メンバーを追加予定

(3) 市民、事業者、団体等を巻き込みながら、プロジェクトを創出・具体化

消費行動	住まい	つながり
●岩崎 達也 株式会社マガザン 代表取締役	●大木 和典 mui Lab株式会社代表取締役	●太田 航平 特定非営利活動法人地域環境デザイン研究所ecotone 代表理事
岩崎 仁志 株式会社ヒューマンフォーラム	●鈴木 靖文 有限会社ひのでやエコライフ研究所 代表取締役	十塚 悠 合同会社洛北社中 代表, 大宮交通公園 管理人
堤 卓也 株式会社堤浅吉漆店 専務取締役	丸屋 亮介 株式会社ジェイ・エス・ビー 営業推進 本部 副本部長	●中嶋 直己 株式会社中嶋農園 4代目
野村 宏美 パタゴニア京都		中田 俊 株式会社夢びと代表取締役
●前田 展広 前田展広事務所 代表 (京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション・コーディネーター)	吉田 創一 株式会社フラットエージェンシー 代表 取締役	●野村 恭彦 Slow Innovation株式会社 代表取締役
松本 健太 株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸京都 店		東 信史 有限責任事業組合まちとしごと総合研究所 代表
本山 喜之 株式会社ビオスタイル		

# テーマ別WGのスケジュール

第1フェーズ（～令和4年夏頃）

第2フェーズ（令和4年夏以降）

## 推進チーム

会議① 会議② 会議③ 会議④

- ・2050年の脱炭素ライフスタイルのビジョン
- ・2030年の目標, アクションリスト
- ・プロジェクト方向性の検討



- ライフスタイルビジョン等の発信
- アクションの率先実行
- プロジェクトへの助言

## テーマ別WG

- ①消費行動
- ②住まい
- ③つながり

WG① WG②

- アクションリストの検討
- プロジェクト方向性の検討
- 先駆けプロジェクトの実施



- プロジェクトを創出・実行
- ✓ 社会実験

## 市民参加



推進チーム等の議論を確認

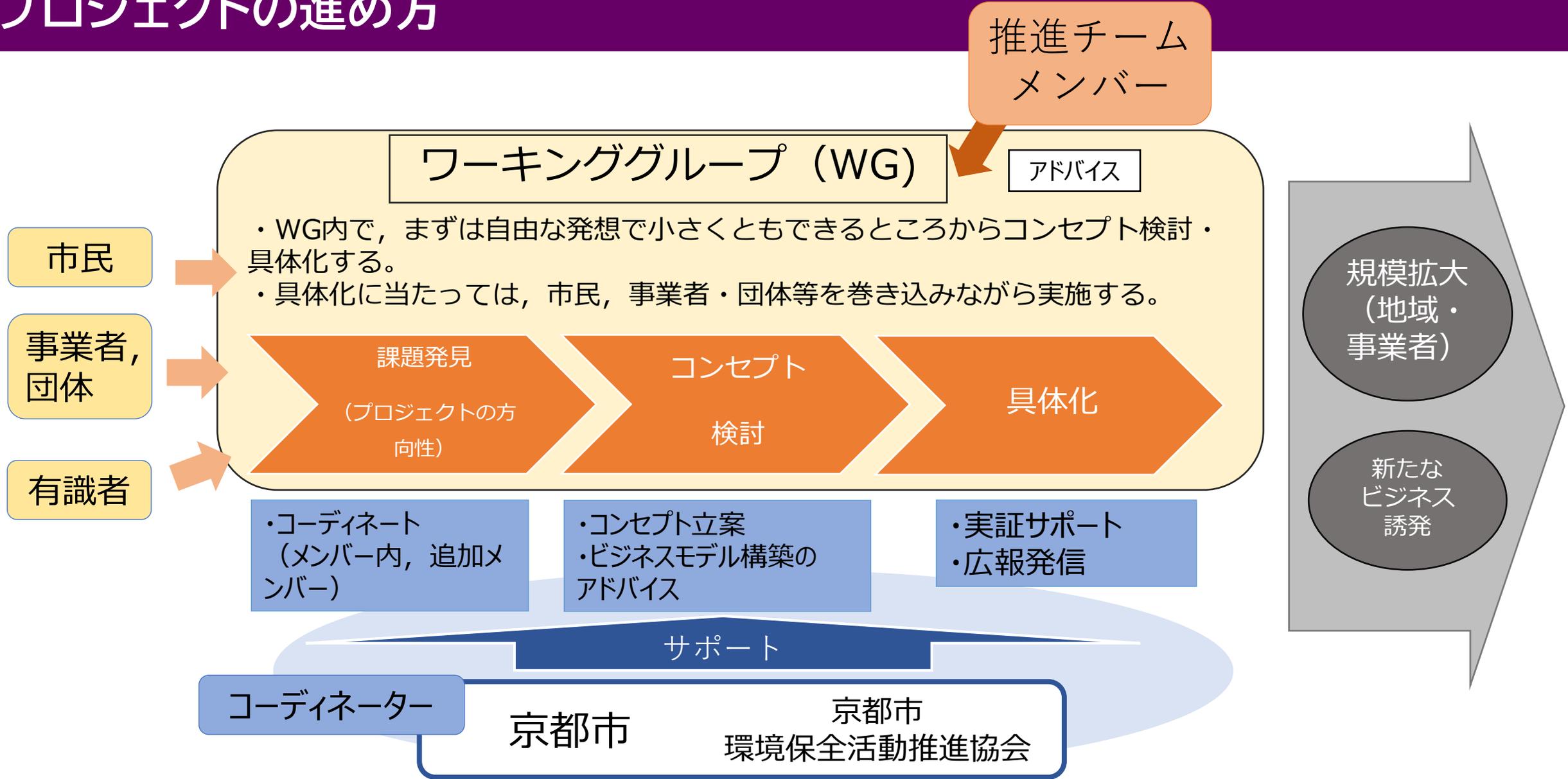


- ・アクションリスト実践, 追加・提案
- ✓ 市民ワークショップ
- ✓ SNS等での参加, 拡散

ライフスタイルのビジョン等の構築・共有

ライフスタイル実践の市民運動へ！

# プロジェクトの進め方



事務局（京都市，京都市環境保全活動推進協会）はメンバー間のコーディネート，ビジネスモデル構築のアドバイス，実証サポート及び広報発信等の伴走支援を行う。

# 事務局からの支援

## ①プロジェクトの創出に向けて・・・

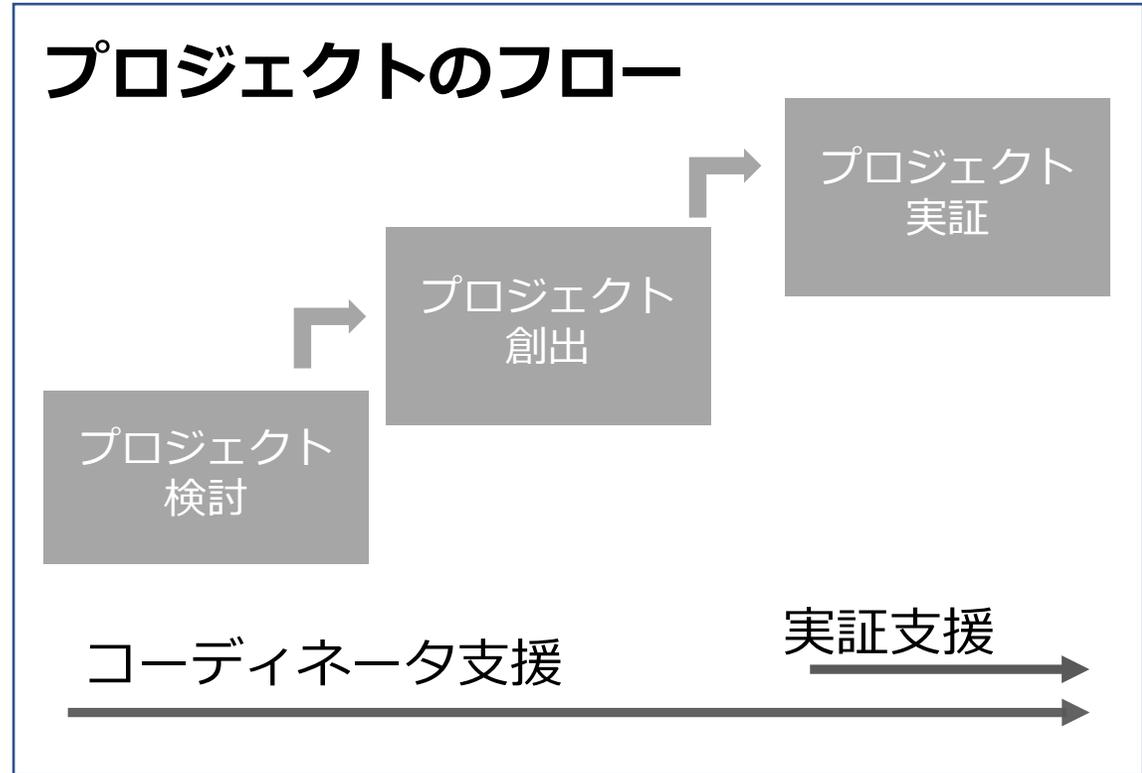
実施に必要な情報収集，必要な関連事業者や専門家等との調整やマッチング，ビジネスモデル構築のアドバイス，など

## ②プロジェクトの実証に向けて・・・

- ・社会実装に向けた実現性，有効性（CO2削減効果など），収益性等が高いもの6件について，実施，実施後の効果検証などへの支援 支援費：1件あたり30万円
- ・京都市からの広報発表，後援等による発信支援

## ③成果の発信

- ・プロジェクトの内容や成果を発信する。
- ・同様のモデルの横展開や，新たなアイデアの誘発を目指す。



※①～③の業務に当たり，**コーディネーターを設置予定**。1件当たりの支援は**原則2年間**

※これらの支援は，**先駆けプロジェクト**でも活用可能

# 創出するプロジェクトの考え方

- ①先進性，波及性があること。
- ②原則としてWGメンバーが中心となり実施するもの（単独でも可）で，実施体制が想定されていること。
- ③対象，活動内容，実現性及び収益性を踏まえた持続可能なビジネスモデルが想定されるなど，社会実装までのスキームや，スケジュールが検討されていること。
- ④目標が設定されていること，なお，目標は原則として，CO2削減量とし，検証が可能であること。
- ⑤取組の規模は小さくても，大きくても構わない。

# プロジェクトの選定方法

○2回のWGで議論をしました結果のまとめとして、すぐに開始できるもの、実現可能性、参加者の有無という観点で、事務局でプロジェクト案を整理

先 先駆けプロジェクト（夏以降の第2フェーズを待たずに取り組むプロジェクト）  
として取り組むもの

★ コーディネータを付けて支援していくもの

無印 第2フェーズ以降、取り組むかどうかを検討するプロジェクトの種

○事務局がWGのまとめ案を作成し、メンバーの皆様に了解いただいた。

# テーマ別WGの報告

# 各WGの報告

WG	WG開催日	ご報告者
消費行動	1回目 2月18日 2回目 3月10日	岩崎様
住まい	1回目 1月24日 2回目 3月 7日	鈴木様
つながり	1回目 2月28日 2回目 3月19日	野村様

# 消費行動WGのメンバー

五十音順・敬称略, ●推進チームメンバー

## ●岩崎 達也

株式会社マガザン 代表取締役

## 岩崎 仁志

株式会社ヒューマンフォーラム

## 堤 卓也

株式会社堤浅吉漆店 専務取締役

## 野村 宏美

パタゴニア京都

## ●前田 展広

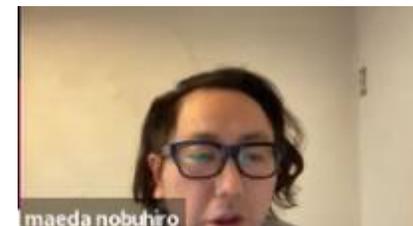
前田展広事務所 代表 (京都市ソーシャルイノベーション研究所 イノベーション・コーディネーター)

## 松本 健太

株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸京都店

## 本山 喜之

株式会社ビオスタイル



# プロジェクト案の一覧

先

先駆けプロジェクトとして進めていくもの



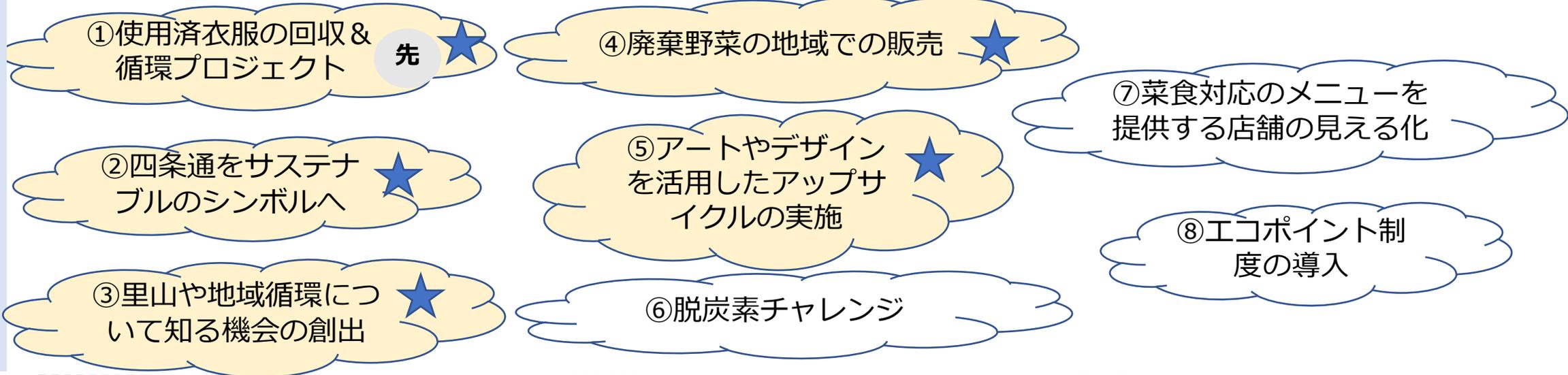
コーディネーターを付けて支援していくもの

	プロジェクト名	先駆け	コーディネーター
1	使用済衣服の回収&循環プロジェクト	先	★
2	四条通をサステナブルのシンボルへ		★
3	里山や地域循環について知る機会の創出		★
4	廃棄野菜の地域での販売		★
5	アートやデザインを活用したアップサイクルの実施		★
6	脱炭素チャレンジ		
7	菜食対応のメニューを提供する店舗の見える化		
8	エコポイント制度の導入		

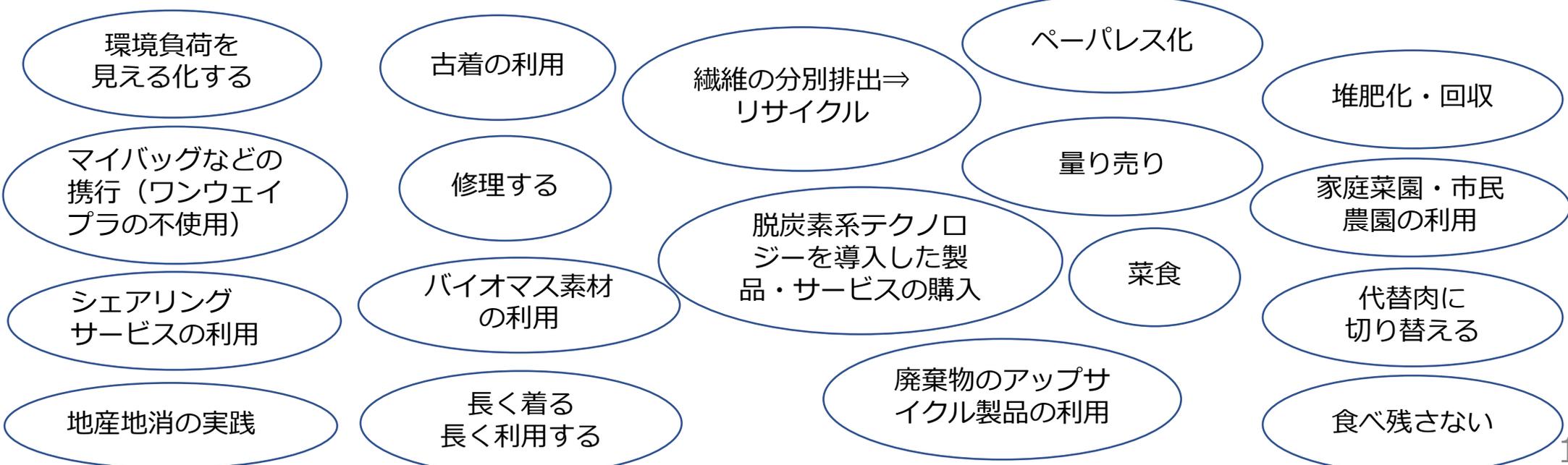
# アクション・プロジェクト案

## 消費行動

アクションを  
実践しやすくなるための  
プロジェクトのアイデア



2030年までに  
市民に実践してほしい  
アクション



# 先駆けプロジェクト案

## ①使用済衣服の回収&循環プロジェクト

<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・使用済衣服を回収し，地域内でリユースする仕組みを創出する。</li><li>・リユース衣服の利用が若者のカルチャーとなることを目指す。</li></ul>
<b>方法</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市内施設（京都信用金庫等）に回収拠点を設置し，使用済み衣服を回収する。</li><li>・回収した衣服を選別のうえ，市内でリユース可能な衣服はイベント等で販売し，市内リユース不可な衣服は，リサイクルや市外でのリユースを行う。</li></ul>
<b>目標</b>	市内で回収し，市内でリユースされた衣料数 ○着
<b>効果測定</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 廃棄に伴うCO2排出量 × 回収した衣料数 = ○ (t-CO2)</li><li>・ 新製品の製造に係るCO2削減量 × リユースした衣料数 = ○ (t-CO2)</li></ul>
<b>希望者</b>	岩崎（仁）

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ②四条通をサステナブルのシンボルへ

### 目的

京都の消費の代名詞ともいえる四条通をサステナブルのシンボルとして、再エネや資源循環の実践や、環境配慮の人や企業が集まる場所とし、情報発信する。

### 方法

- 四条通の商店街で使用する電力を再エネ電気に切り替える。
- 各店舗等で環境配慮のイベントを開催し、環境配慮の人や企業が集う場づくりを行う。
- 四条通にコーヒーかすなどの生ごみや堆肥、使用済み衣類等を回収する資源ステーションを開設する。回収した生ごみ等は堆肥化や飼料化し、市域内で循環する。

### 目標

- 四条通の共用部 再エネ電気切替〇%
- 四条通の入居店舗 再エネ電気切替〇%

### 効果測定

- 四条通共用部や店舗の再エネ電気切替によるCO2削減量 ○ (t-CO2)
- 回収した生ごみ等の廃棄に伴うCO2排出量の削減分等

### 希望者

野村, 松本, 堤

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ③里山や地域循環について知る機会の創出

<b>目的</b>	産地と消費地をつなげ、モノのストーリーを知り大切にする心を育む
<b>方法</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>地元材を使用したものづくり、修理、手入れする体験イベントを開催する。</li><li>産地での栽培及び収穫体験イベント（しいたけの収穫体験など）を実施する。</li></ul>
<b>目標</b>	地域材活用事例の創出数      ○件
<b>効果測定</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>地産地消による削減量 輸送エネルギーのCO2削減量 × 数量</li><li>ものを長く大切に使うことによる削減量 廃棄に伴うCO2排出量 × 数量 使い捨て等の新製品製造に係るCO2削減量 × 数量</li></ul>
<b>希望者</b>	堤, 松本, 本山

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ④廃棄野菜の地域での販売

### 目的

まだ食べられるのに廃棄される野菜を地域で販売し、ごみ量を削減し、輸送や焼却に係るCO2を削減する。

### 方法

- 商店や公共の施設の軒先で、市場で売れ残った野菜を販売する。
- スーパーへの移動が困難な買い物弱者のサポートにも資する農福環境連携の取組としてPRし、参加店舗を募る。

### 目標

廃棄野菜の販売店舗数      ○店舗

### 効果測定

廃棄に伴うCO2排出量 ×点数 = △ (t-CO2)  
購入が不要なくなった別の野菜の製造に係るCO2排出量 ×点数 = △ (t-CO2)

### 希望者

岩崎（達），本山

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ⑤アートやデザインを活用したアップサイクルの実施

**目的** アート関連の廃材をアップサイクルで付加価値を向上し、環境負荷を低減する。

**方法**

- 美術系の大学やアーティストが廃棄予定の物の中から、利活用できるものを選別・加工し、販売する。
- 京都の店舗の不要になった買い物袋を再利用する。店舗の広告としても利用可能。

**目標** ごみの削減量 〇件

**効果測定** 未定

**希望者** 岩崎（達）、野村

## ⑥脱炭素チャレンジ

<b>目的</b>	具体的な行動と脱炭素の関係性を示し、一人ひとりの日常のアクションの重要性を共有する。
<b>方法</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>市民による、脱炭素チャレンジ「〇〇をやってみた」など、実体験を交えた発信を行うことで、脱炭素につながる行動のハードルを下げる。</li><li>自社の事業の中で、何が脱炭素につながるかをわかりやすく発信する。</li></ul>
<b>目標</b>	未定
<b>効果測定</b>	未定
<b>希望者</b>	本山

# プロジェクト案

## ⑦菜食対応のメニューを提供する店舗の見える化

目的	菜食を増やすことによる環境負荷を低減する
方法	<ul style="list-style-type: none"><li>菜食専門店以外の飲食店のメニューにベジタリアン料理の追加を提案する。</li><li>菜食料理の提供に関する情報を整理し、発信する。</li></ul>
目標	菜食料理の提供店舗数 ※KYOTOVEGANの掲載数は現状150店舗
効果測定	菜食中心食によるCO2削減量 × 食事提供数 = O (t-CO2)
希望者	松本

## ⑧エコポイント制度の導入

<b>目的</b>	日常の行動が脱炭素ライフスタイルにつながるよう、ポイントや特典の付与などにより、行動を促進する。
<b>方法</b>	製造・調達において環境負荷の低い商品にポイントや特典を付与する。
<b>目標</b>	エコポイント利用者数 〇人
<b>効果測定</b>	※グリーンライフポイントを活用するなら、その消費に伴うCO2削減効果測定が必須
<b>希望者</b>	松本

●大木 和典

mui Lab株式会社 代表取締役



●鈴木 靖文

有限会社ひのでやエコライフ研究所 代表取締役



丸屋 亮介

株式会社ジェイ・エス・ビー 営業推進本部 副本部長

吉田 創一

株式会社フラットエージェンシー 代表取締役

# プロジェクト案の一覧

**先** 先駆けプロジェクトとして進めていくもの

 コーディネーターを付けて支援していくもの

	プロジェクト名	先駆け	コーディネーター
1	つながりを感じられる住まいづくり (京都の冬は寒くないプロジェクト)	<b>先</b>	
2	賃貸マンションの再エネ電気切替促進		
3	実証実験によるデータ収集・分析と発信		
4	省エネ家電購入促進に向けたナッジの活用		
5	住宅の省エネ・再エネ分を取引できる仕組み		
6	賃貸住宅紹介時の省エネ性能の見える化		
7	断熱性能の良い家の体験の場づくり		
8	中古家電・家具2Rプラットフォーム		
9	情報共有のHUBづくり		

アクションを実践しやすくなるためのプロジェクトのアイデア

2030年までに市民に実践してほしいアクション

①つながりを感じられる住まいづくり  
(京都の冬は寒くないプロジェクト) **先** ★

③実証実験によるデータ収集・分析と発信 ★

④省エネ家電の買替ナッジ

⑧中古家電・家具2Rプラットフォームの構築

⑨情報共有のHUBづくり

⑤住宅の再エネ・省エネ分を取引できる仕組み

省エネ家電の利用

市内産木材の利用  
・暮らしに木を取り入れる

自然で暮らしやすい工夫  
(グリーンカーテン・打ち水等)

ICTによるエネルギー見える化し、高効率な暮らし

EVを電池として活用

植物を育てる

家具や家電のPaaS利用

修理できなくなった家電等の回収



アクションを  
実践しやすくなるための  
プロジェクトのアイデア

2030年までに  
市民に実践してほしい  
アクション

②賃貸マンションの  
再エネ電気切替促進

緑化に取り組む場合の  
新築時における駐車場の  
付置義務の緩和

⑥賃貸住宅紹介時の  
省エネ性能の見える化

⑦断熱性能の良い家の  
体験の場づくり

再エネ電気への  
切り替え, 使用

【賃貸】省エネ・  
再エネ物件の選択

太陽光パネル・  
蓄電池の導入

【既築】  
省エネリフォーム  
(環境性能向上)

ICTによりエネル  
ギーを見える化し,  
高効率な暮らし

環境配慮マンション・  
シェアハウスの選択

【共通】  
メンテナンスし  
ながら長く住む  
(住まいは社会  
の共通財産)

【新築】  
ZEH物件の選択

市内産木材の利用  
・暮らしに木を  
取り入れる



# 先駆けプロジェクト案

## ① つながりを感じられる住まいづくり (京都の冬は寒くないプロジェクト)

### 目的

地域・社会における孤立を防ぎ、地域ぐるみでの面的な脱炭素ライフスタイルの実践・教育につなげる

### 方法

- 学生寮やシェアハウスの住民グループで環境配慮活動に取り組む。  
取組例：農園部，コンポスト，断熱ワークショップ
- 実施に当たっては、地域住民と連携を図る。また、学生を入れたチームを編成し、学生主体で楽しく取り組む。

### 目標

地域コミュニティの創出数 ○団体

### 効果測定

団体取組の削減量 (kg-CO<sub>2</sub>。取組により異なる) × 団体数

### 希望者

丸屋，吉田，鈴木

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ②賃貸マンションの再エネ電気切替促進

<b>目的</b>	賃貸マンションの共用部を再エネ電気に転換していく
<b>方法</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 賃貸マンション（新，既）オーナーに金銭面のメリットや脱炭素の意義・方法をまとめ、不動産会社から提案する。</li><li>・ 賃貸共用部でのEE電（グループ購入）やPPA（電力販売契約）の活用を検討する。</li><li>・ 市民を巻き込んだプロジェクト（賃貸・分譲・戸建て問わず）を中長期プロジェクトと位置づけて実践する。</li><li>・ インセンティブを付けた制度設計を検討する。</li></ul>
<b>目標</b>	市内マンション〇棟の共用部分の電気の再エネ転換（□年後）
<b>効果測定</b>	1棟当たりのCO2削減量（kg-CO2） × 〇棟 = △△（t-CO2）
<b>希望者</b>	丸屋，吉田，大木，鈴木

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ③実証実験によるデータ収集・分析と発信

**目的** 省エネ・再エネなどの行動変容を効果的に促す

**方法**

- ・ ユーザーである学生の意識や行動変容に関するデータを収集・分析するとともに、結果を発信する。
- ・ 学生マンションでの実証実験として、Z世代など若者に刺さるメッセージやインセンティブ（例：EE電を活用した学割）を調査し、情報提供する。

**目標** 若者向け効果的な発信方法の確立

**効果測定** 未定

**希望者** 丸屋，大木，鈴木

## ④省エネ家電購入促進に向けたナッジの活用

**目的** 省エネ家電を購入促進する

**方法**

- 省エネ家電を新生活家電セットのデフォルトとして表示するグループとそうでないグループに分け、有効性をテストする。
- 有効性が検証できれば、市内不動産賃貸業者や大学生協、家電量販店と連携して社会実装
- 国事業の「ナッジを用いた大学生新入生向けの高効率家電の購入促進」と連携する。

**目標** 大学生の省エネ家電購入率の向上 〇%

**効果測定** 大学生の省エネ家電選択による1人当たりのCO2削減量 (kg-CO2) × 大学生人数 = △ (t-CO2)

**希望者** 鈴木

## ⑤住宅の省エネ・再エネ分を取引できる仕組み

**目的** 省エネ・再エネに経済合理性を持たせ、行動変容をデータドリブン型で促す

**方法**

- ・ ユーザーが省エネ分の排出権を売る，それを企業が買うという排出権取引の仕組みをつくる。
- ・ まずは，京都市の令和4年度事業「住宅の再エネ地産地消地域循環推進事業」（住宅の再エネ自家消費分を環境価値として循環）の結果を共有する。

**目標** 省エネ・再エネ住宅への入居率増加 〇%

**効果測定** 環境価値化されたCO2削減量の総量

**希望者** 大木，鈴木

## ⑥賃貸住宅紹介時の省エネ性能の見える化

**目的** 省エネ性能の良い賃貸住宅を借り手が選べるようにする

**方法**

- 賃貸募集時に省エネ性能や目安光熱費を分かりやすく表示し、仲介業者が紹介しやすい資料を作成する。
- どういった要素を表示すれば、オーナー・借り手に引っ掛かるのか調査する。
- CASBEE京都を使ったことによる影響や効果をヒアリングする。
- 学生が自身の家の省エネ性能を調べ、情報として集める。
- 家電も含めた脱炭素性能を見える化する仕組みを検討する。

**目標** 省エネ賃貸住宅への入居率（or省エネ賃貸住宅率）増加 □%

**効果測定** 1戸当たりのCO2削減量（kg-CO2）×入居世帯数 = △（t-CO2）

**希望者** 吉田，大木，鈴木

## ⑦断熱性能の良い家の体験の場づくり

**目的** 高断熱な家の住みやすさを実感し、高齢者も含め、健康な住宅を選べるようにする

**方法**

- 断熱住宅お泊り会を実施する。
- 学生マンション空室を利用し、高断熱のメリットを実感する機会を創出する。  
※断熱住宅の取引価値を高めることも必要

**目標**

断熱住宅の選択率向上 ○% (○年後)

**効果測定**

1戸あたりのCO2削減量 (kg-CO2) × 戸数 = △ (t-CO2)

**希望者**

鈴木

## ⑧中古家電・家具2Rプラットフォーム

**目的** まだ使える家電・家具の融通により，資源循環を図る

- 方法**
- 会社や学校単位で中古家電のリユースができるようにサポートする。
  - これまで行われてきた大学での中古家具・家電リユースの課題，現状を整理する。

**目標** 家具，家電のリユース率の向上・〇%

- 効果測定**
- 廃棄に伴うCO2排出量 ×点数 =  $\Delta$  (t-CO2)
  - 新製品の製造に係るCO2削減量 (品目ごとにモデル設定) ×点数 =  $\Delta$  (t-CO2)

**希望者** 鈴木

## ⑨情報共有のHUBづくり

**目的** 各取組の状況をオープンに共有することで取組を活性化する

**方法**

R4年度京都市が開設予定の脱炭素ライフスタイルのWEBサイトに、再エネや省エネ住宅・家電等に関する情報共有ページを作成する。

**目標**

WEBサイト等媒体の閲覧者数

**効果測定**

未定

**希望者**

鈴木

# つながりWGのメンバー

五十音順・敬称略, ●推進チームメンバー

## ●太田 航平

特定非営利活動法人地域環境デザイン研究所  
ecotone 代表理事

## 十塚 悠

合同会社洛北社中 代表, 大宮交通公園 管理人

## ●中嶋 直己

株式会社中嶋農園 4代目

## 中田 俊

株式会社夢びと 代表取締役

## ●野村 恭彦

Slow Innovation株式会社 代表取締役

## 東 信史

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所 代表



事務局：京都市, (公財)京都市環境保全活動推進協会

# プロジェクト案の一覧

先

先駆けプロジェクトとして進めていくもの



コーディネーターを付けて支援していくもの

	プロジェクト名	先駆け	コーディネーター
1	京都脱炭素ツーリズムのHUB創設	先	★
2	環境配慮型農業の実践		★
3	地域での生ごみ堆肥の活用推進		★
4	脱炭素アンバサダー制度		★
5	サーキュラーエコノミービジネス人材の育成プログラム		
6	土中環境の改善		
7	ていねいな暮らしを学べる学校		
8	歩くデジタルスタンプラリー		
9	規格外野菜の販売		

# アクション・プロジェクト案

つながり

生活文化

アクションを  
実践しやすくなるための  
プロジェクトのアイデア

① 京都脱炭素ツーリズムの  
HUB創設

★

④ 脱炭素アンバサダー  
制度

★

⑦ ていねいな暮らし  
を学べる学校

② 環境配慮型農業  
の実践

★

⑤ サーキュラーエコノ  
ミービジネス人材の育成  
プログラム

⑧ 歩くデジタルスタ  
ンプラリー

③ 地域での生ごみ堆  
肥の活用推進

★

⑥ 土中環境の改善

⑨ 規格外野菜の販売

2030年までに  
市民に実践してほしい  
アクション

スマートムーブ（公  
共交通機関の活用・  
徒歩・自転車）

コミュニティ  
でエコ活動

地域や世代間での  
環境教育の実践

地域の自然を楽しむ  
観光、レジャー、  
サイクリング

ライドシェアの利用

地域で電力の融通

植林・間伐をする

地域の緑や自然、森  
川の恵みを利用する  
生物多様性の保全

エコカーの活用

地域のお店で購入・修理

エコドライブの励行

消費者と事業者の顔の  
見える関係がある

自分に使う時間が増加

テレワークの実施

# 先駆けプロジェクト案

## ①京都脱炭素ツーリズムのHUB創設

目的	京都の脱炭素な取組をツアーを通じて広めていく
方法	<ul style="list-style-type: none"><li>市内での脱炭素に関する取組を集約し、旅行者や、修学旅行、会社研修に対して、体験型ツアーを案内する案内所を創設する。参加者に、学びながら取組とつながることができる場を提供する。</li><li>脱炭素な取組には市民も参加可能なものとし、近隣で参加できるように、さまざまな場所を示す。</li><li>脱炭素な取組を実施する団体等に対して、案内料の一部を還元するとともに、脱炭素の数値効果の測定を支援する。</li><li>ツアー参加に伴うCO2排出量の<u>カーボン・オフセット</u>することも検討 ※DYKクレジットの活用など</li></ul>
目標	取組団体数 ○数, 取組全体による合計CO2削減量 ○t-CO2
効果測定	取組内容による
希望者	野村, 東, 十塚, 太田

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ②環境配慮型農業の実践

<b>目的</b>	環境に配慮した脱炭素型農業モデルの構築，発信
<b>方法</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>農業に伴うCO2排出量の低減のため，トラクターの脱炭素化（廃食用油由来のバイオディーゼル燃料の活用やEV化），畑や事業所等で使用する電気を再エネ電気へ転換する。</li><li>生ごみ堆肥で野菜を育てる資源循環型農業を推進する。</li><li>市民や飲食店を対象とした農業体験の場をつくる。</li><li>飲食店での地産地消食材活用を推進する。</li><li>移動販売による地産地消を推進する。</li></ul>
<b>目標</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>脱炭素型農業モデルの構築</li><li>同様モデルの実施農家数 〇件</li></ul>
<b>効果測定</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>再エネ設備導入や，エネルギーの切り替えによるCO2削減効果</li><li>生ごみ廃棄に伴うCO2排出量の削減分，窒素肥料から堆肥への代替によるN2O等発生量削減効果，代替された窒素肥料の製造に伴うCO2排出量の削減分</li><li>移動販売によるフードマイレージ削減量</li></ul>
<b>希望者</b>	中嶋，東，十塚

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ③地域での生ごみ堆肥の活用推進

<b>目的</b>	生ごみ堆肥の活用による資源循環モデルの拡充
<b>方法</b>	家庭の生ごみ堆肥を市内拠点で回収し、地域の農家で活用する地域循環の「ごみカフェKYOTO」モデルを拡充する。
<b>目標</b>	ごみカフェKYOTOモデルの実施件数 〇件
<b>効果測定</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 生ごみ廃棄に伴うCO2排出量の削減分</li><li>• 窒素肥料から堆肥への代替によるN2O等発生量削減効果</li><li>• 代替された窒素肥料の製造に伴うCO2排出量の削減分</li></ul>
<b>希望者</b>	中田, 十塚

# コーディネーター付きプロジェクト案

## ④脱炭素アンバサダー制度

**目的** 学生を含め、多様な市民に脱炭素の取組に参加，発信してもらう

**方法**

- 学生などの市民に脱炭素アンバサダーとして，脱炭素取組へ参加し，情報発信してもらう。
- 脱炭素アンバサダー就任の要件にデジタルスタンプラリー参加などの取組実践を求める。
- 脱炭素アンバサダー制度を通じて，若者と大人や企業が対話する場をつくる。企業，行政，学校等が社会実験できる環境を用意する。

**目標**

- 脱炭素アンバサダー就任人数 ○名
- 市民ワークショップの開催 5回/年

**効果測定**

未定

**希望者**

中田，東

## ⑤サーキュラーエコノミービジネス人材の育成プログラム

**目的** 脱炭素ライフスタイルへの転換に資するビジネスを創出する

---

**方法** サーキュラーエコノミーのビジネスモデルで起業する人を育成するプログラムを実施する。

---

**目標**

- ・ アイデアソン開催数 1回/年
- ・ サーキュラーエコノミーを事業とするスタートアップ起業数 ○社

---

**効果測定** 事業活動によるCO2削減効果（事業により異なる）

---

**希望者** 十塚, 太田

## ⑥土中環境の改善

**目的** 植物や土壌のCO2吸収量を増やす

---

**方法**

- 落ち葉や農家で活用しにくい生ごみ堆肥を街路樹で活用する。
  - 土中環境を改善することで、植物や土壌のCO2吸収量を増やし脱炭素につなげる。
  - 人通りが少ない等、影響が及びにくいところから、土の歩道を増やしていく。地域の人が土をメンテナンスする仕組みをつくる。
- 

**目標** 地域での土中環境改善の事例数 ○件

---

**効果測定** 街路樹や農地のCO2吸収量

---

**希望者** 十塚

## ⑦ ていねいな暮らしを学べる学校

**目的** 脱炭素ライフスタイルを広める

---

**方法**

- 公園で資源循環や地産地消など、ていねいな暮らしを学ぶ講座等をつくる。
  - 脱炭素ではなくていねいな暮らしと言い換えることで、幅広い層に脱炭素ライフスタイルに関心を持ってもらう。
- 

**目標** 講座等開設数 ○件

---

**効果測定** 取組内容による

---

**希望者** 十塚

---

## ⑧歩くデジタルスタンプラリー

**目的** 徒歩や公共交通活用と、脱炭素活動への参加促進

**方法**

- 徒歩や自転車、公共交通機関で市内での脱炭素に関する取組スポットを巡る仕組みを創設する。
- デジタルスタンプラリーを活用し、取組スポットにスタンプを設置する。

**目標** デジタルスタンプラリー参加者 〇人

**効果測定** 自動車利用から徒歩、公共交通等利用による転換に伴うCO2削減量

**希望者** 十塚

## ⑨規格外野菜の販売

**目的** 食べられるのに廃棄される野菜を減らす

---

**方法**

九条湯（コワーキングスペース）で開催している、規格外野菜を販売する「もったいないマルシェ」を市内に広げていく。

---

**目標**

もったいないマルシェの市内開催数 〇件

---

**効果測定**

廃棄に伴うCO2排出量 ×点数 = △ (t-CO2)  
購入がなくなかった別の野菜の製造に係るCO2排出量 ×点数 = △ (t-CO2)

---

**希望者**

十塚

5月～

## 先駆けプロジェクトに係る会議

- ・各WGの先駆けプロジェクトについて、参画希望者とコーディネーターで、具体化に向けて協議します。

※先駆け以外のプロジェクトについても、進められそうなものは、会議を開催し、具体化を進めていきます。

8, 9月頃

## 次回WG会議

- ・推進チームによるビジョン構築後の第2フェーズとなる夏頃、先駆け以外のプロジェクトの具体化に向けた全体会議として開催します。
- ・参加者は、現状のWGメンバーに加え、プロジェクト具体化に向けた関係者にも新たに参加いただきます。

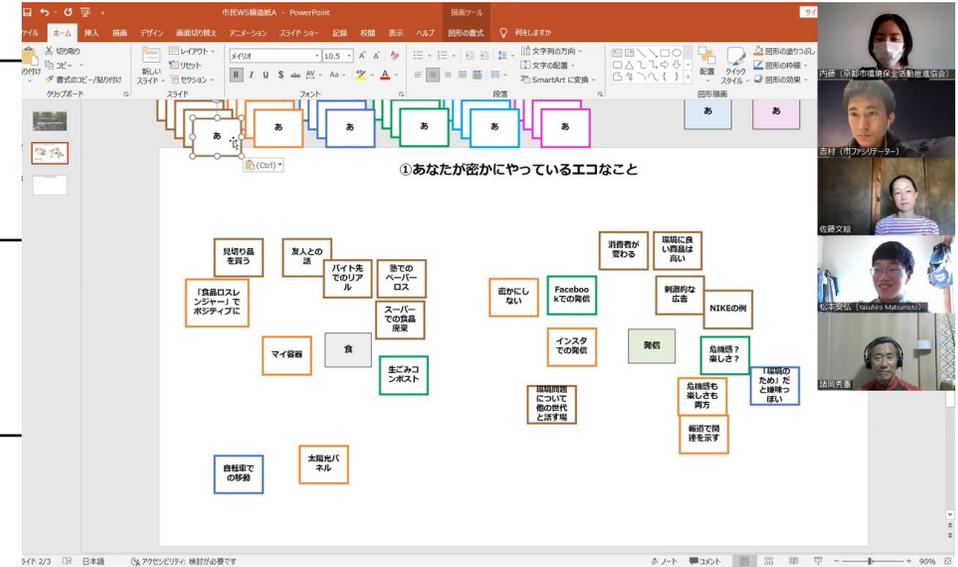
# 市民ワークショップの報告

# 市民ワークショップ

**日時** 2022年3月27日(日) 13:30~15:00

**開催方法** オンライン会議システム (Zoom)

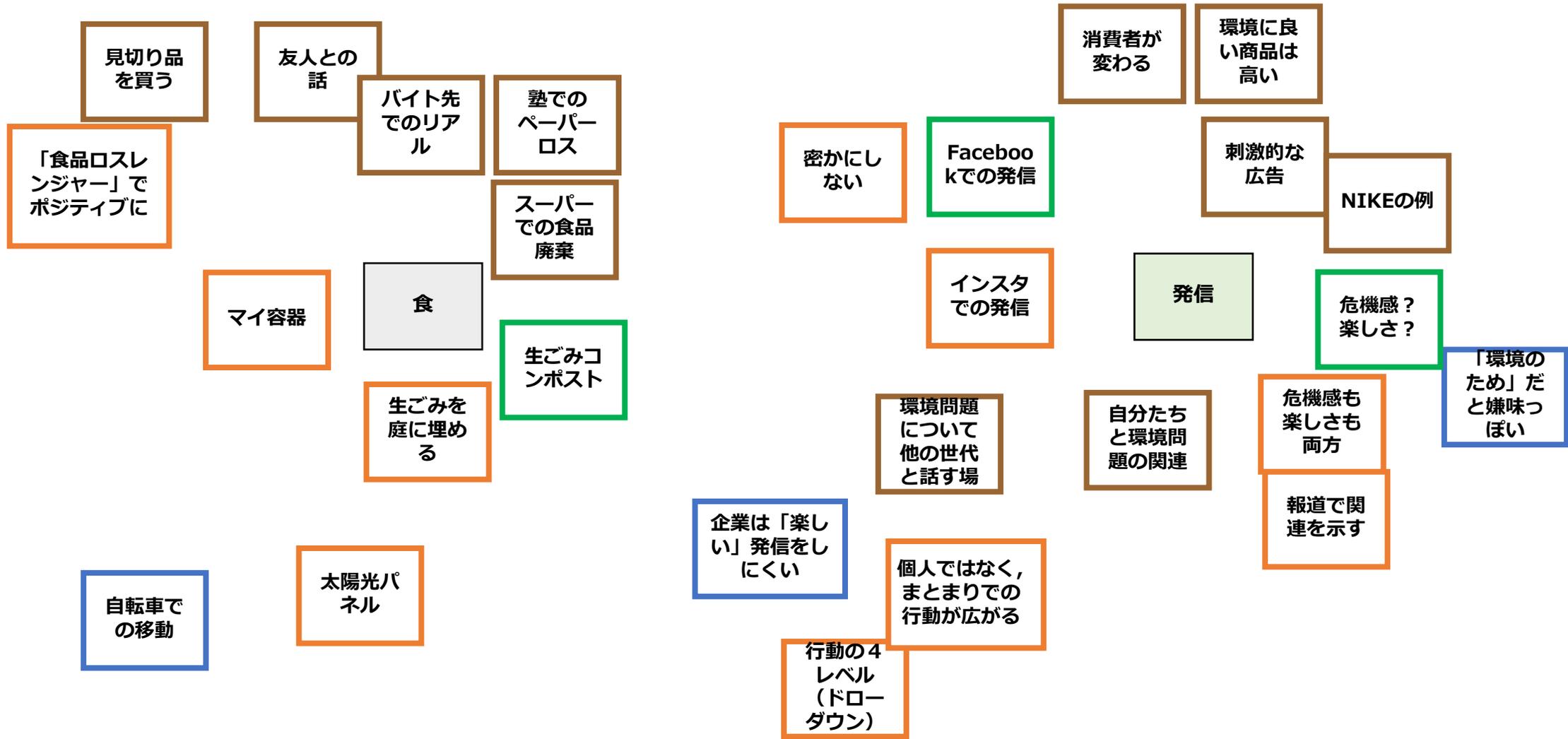
**参加者数** 12名



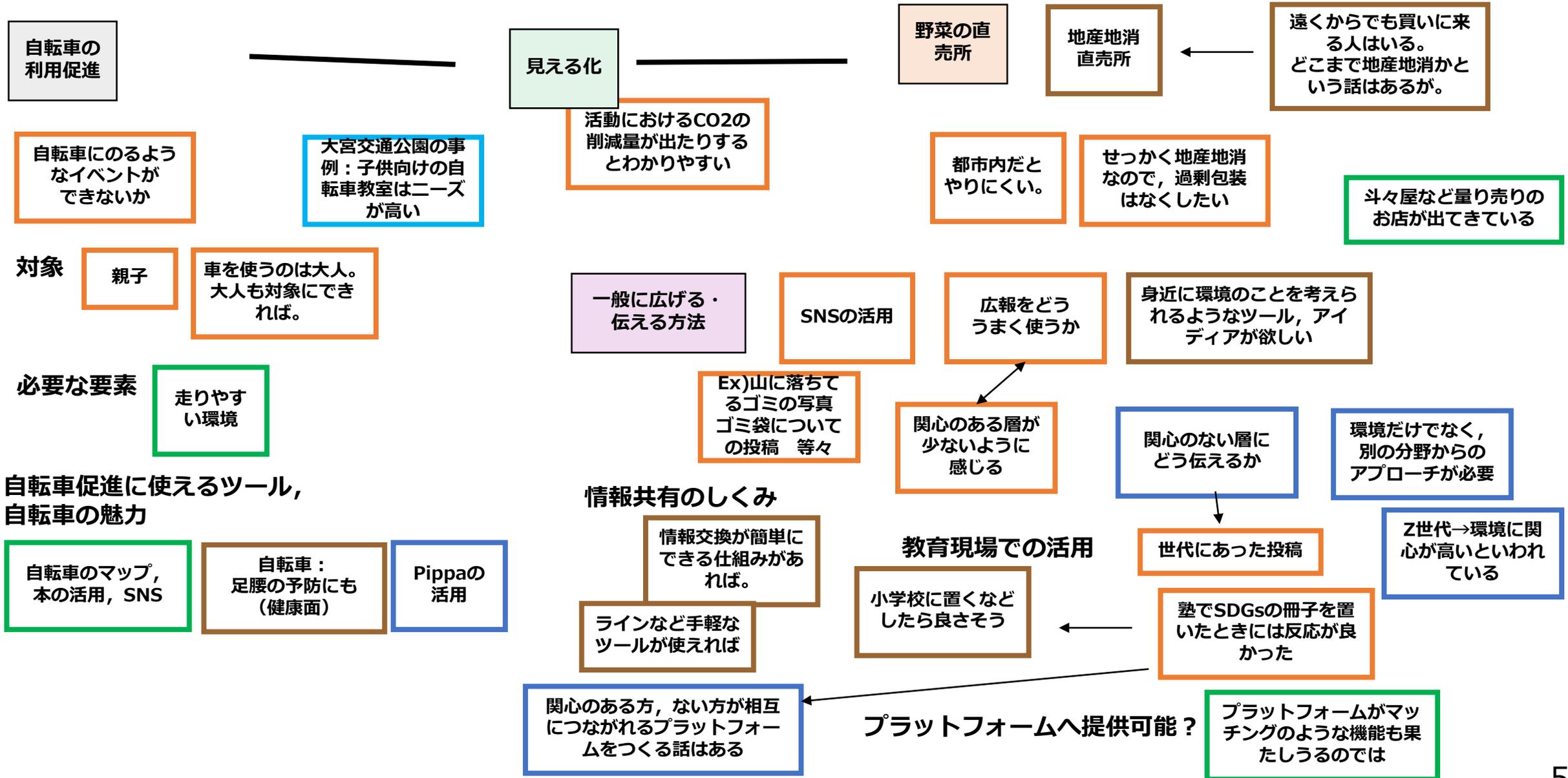
**内容** グループA, グループB, グループCに分かれて意見交換

**テーマ** ①あなたが密かにやっているエコなこと  
②なぜできないか? できない人ができるための工夫, どうすれば皆やるようになるか?

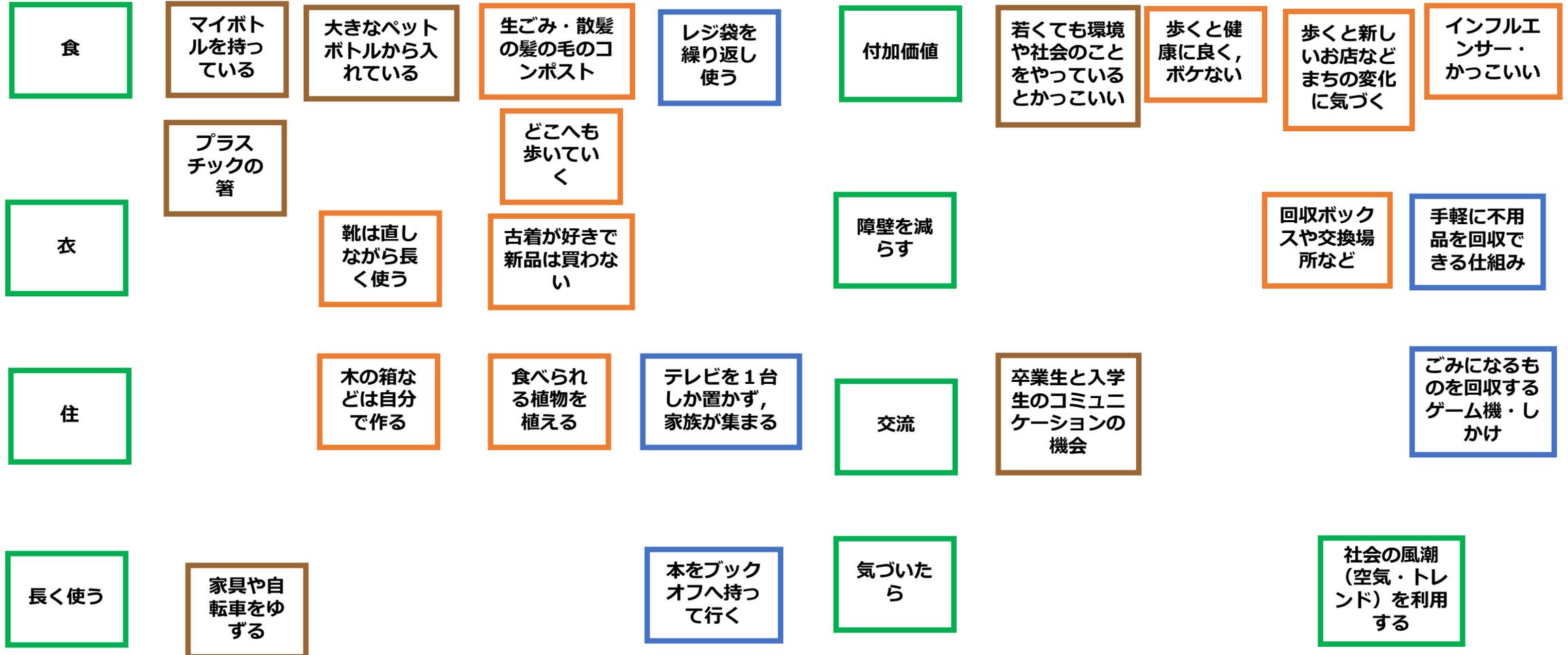
# グループA



# グループB



# グループC



# 市民WSでのご意見

行動できない人ができるための工夫，どうすれば皆やるようになるか？

## 効果的に伝える



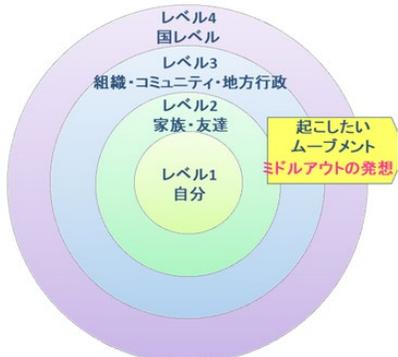
- 刺激的なメッセージを発信
- 環境に取り組むことが「かっこいい」
- 社会の風潮（空気・トレンド）を利用する
- 環境だけでなく，別の分野からのアプローチ

## SNSでの発信



- 自分が実践している行動をSNSで発信
- 山に落ちているごみをSNSで投稿
- 世代に合った投稿をする
- インフルエンサー・かっこいい
- LINEで気軽に情報共有

## 集団での行動を広げる



- 個人ではなくまとまりでの行動を広げる

出典：ドローダウン・ジャパン・コンソーシアム「社会変革，環境への取り組みにおける『行動の4つのレベル』」

## 交流の機会



- 卒業生と入学生のコミュニケーションの機会
- 環境について世代間で話すことができる場づくり

# 市民WSでのご意見

行動できない人ができるための工夫，どうすれば皆やるようになるか？

## SDGs 教育



- 小学校にSDGsの冊子を置く

## 自分事としての認識



- 報道で気候変動との関連を示す
- 気候変動が起きていることを実感してもらう
- 自分たちと環境問題の関連を知る

## ツール作成



- 身近に環境問題について考えることができるツール作成

## 環境負荷の見える化



- 活動によるCO2削減量の見える化

# 市民WSでのご意見

行動できない人ができるための工夫，どうすれば皆やるようになるか？

## 野菜の直売所



- 地産地消
- 過剰包装はしない

## 資源循環の仕組み



- ごみになるモノを回収する仕掛け
- 手軽に不用品を回収できる仕組み
- 回収ボックスや交換場所

## 自転車の利用促進



- 自転車に乗るイベント開催
- 大人も対象に
- 走りやすい環境整備
- 足腰の健康に良い

## 歩くことの推進



- 歩くと健康に良く，ボケない
- 歩くと新しいお店などまちの変化に気づく

# 今後の市民ワークショップ

---

## 目的

- 幅広い市民のアイデアを集め、テーマ別WGの議論で活かすことで、プロジェクトに多様な視点を含める。
  - 市民の行動変容につながる要素を明らかにすることで、市民が参加しやすいプロジェクトを企画する。
- 

## 内容

- 令和4年度には、市民ワークショップを**6回**開催する。
  - そのうち3回は京都市や他団体等が市民と意見交換を行う既存のワークショップ等の場を活用する。
  - WEBサイト上で、ワークショップの成果を発信する。
- 

## 対象

高校生，大学生，子育て世代，企業で働く方，その他一般市民

---

# 非公式ビジョン対話の報告

# 京都市脱炭素推進チーム 「非公式ビジョン対話」

2022年3月28日 14:00-17:00

@QUESTION

呼び掛け人：野村恭彦（Slow Innovation）

津田郁太（京都信用金庫）



**SLOW INNOVATION**

Changing systems step by step

# 非公式ビジョン対話の目的

- **目的**

- 脱炭素ライフスタイル推進チームの有志が集まり、自由にビジョンを語る場をつくること

- **概要**

- 京都市の温暖化対策室の事務局も一人の市民として参加し、みんなそれぞれ個人として「2030年・2050年の脱炭素を実現した京都」のビジョンを思いっきり発想広げて考える
- 推進チームの会合だけでは語り足りない！という方を募り、QUESTIONに対面で集まり対話する
- 参加者は、推進チーム6名、事務局4名であった



# 「非公式ビジョン対話」の問いかけ

## 「京都発の脱炭素ライフスタイル」による京都の未来を表す言葉は？

- 「どうやって脱炭素するか」よりも、「脱炭素のその先のまちや暮らし」はどういう状態になっているだろうか？を言語化します。それぞれの言葉で、たくさんの具体的なシーンを切り取ればと思います。（ほしい未来が脱炭素をテコに実現できないだろうか、という発想で）

## 京都の脱炭素ライフスタイルを実現するために、何が大事だろうか？

1. 脱炭素のビジョンはどんなものであるべきか？  
（ビジョンへの期待効果）

2. そこに向けた  
アプローチとは？

3. 関わってくる社会課題  
の分野は？

4. 多くの市民・企業が参  
加するようになるには？

ビジョン（コミュニティの大志）  
京都発の脱炭素ライフスタイルによる京都の未来を表す言葉とは？

実現に向けたアプローチ（戦略的な学習）  
あらゆるプロジェクトの相互の学び合いをどう促進するか？



効果が最大になる活動の組み合わせ  
脱炭素の実現を通して社会課題を横断的に解決できないか？

すべての関係者の参画  
脱炭素の実現にあらゆる市民の入り口をつくれませんか？



# 非公式ビジョン対話の進め方

1. チェックイン：脱炭素ライフスタイルのビジョンについて感じていること
2. ワールドカフェ：京都の脱炭素ライフスタイルを実現するうえで大事なことは？
3. プロトタイピング：「京都発の脱炭素ライフスタイル」による京都の未来を表す言葉は？
4. チェックアウト：本日の感想



# 対話の結果として生まれてきたビジョン

- 「**気が付けば脱炭素**」
  - 脱炭素はめざさない
  - 豊かさのその先の結果が脱炭素
  - 楽しく取り組む脱炭素
  - つながり めぐる 脱炭素
- 「**京都のていねいな暮らしを引き継ぐ**」
  - 京都のホンマモンは無駄がない
  - 京都の豊かさ・魅力≒脱炭素
  - 自由な発想で信じるもの・守りたいもの・引き継ぐこと
  - 心も身体も自分にも、環境にも良い暮らしを探求できる
  - 無理なく丁寧な暮らしが実現する社会

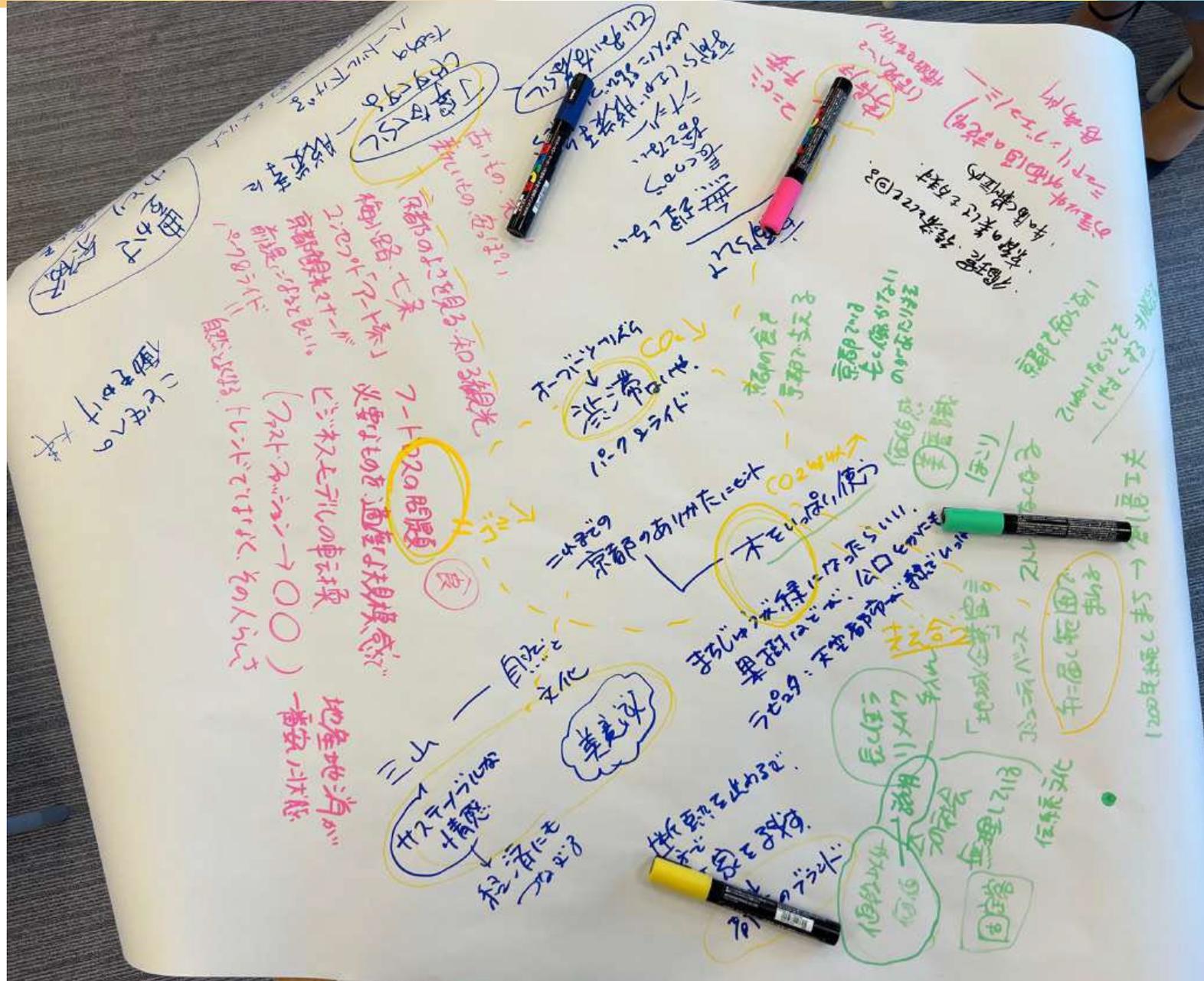


# 対話のなかで生まれた具体施策

- **昔からある持続的な暮らし・工夫をカタチにする**
  - ていねいな暮らしで、ごみゼロ
  - 歩きやすいまちづくりで、渋滞ゼロ
  - 京の街の伝統・文化、街並みを守った上で、それを裏から脱炭素に必要な技術が支える
  - 土と木と自然を増やす、CO2吸収アップ
  - 地域のつながりを復活させ、支え合うことで一丸となって取り組む脱炭素
- **欲ではなく、本来の自分が求めているものを見出す**
  - 個人・地域・企業に2050年を考えることを呼びかける
    - 大量に買って、大量に捨てて、めちゃくちゃ働いて・・・疲れてないですか？捨てる、無駄にする罪悪感のない暮らしとは？
    - 観光は安売りせず、徹底した高付加価値で提供できないか？



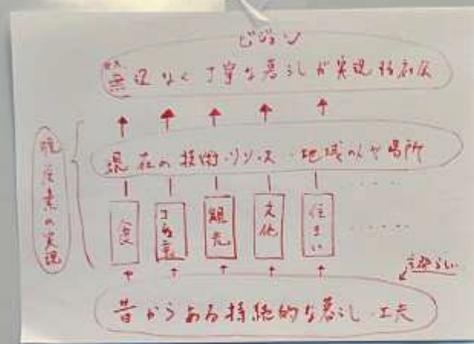
# ワールドカフェ (1)





# プロトタイピング：ビジョンを描く

2050 脱炭素ライフスタイル：京都にそとろう  
 ていねいな暮らし、ごみゼロ  
 地産地消、近一歩、シェアリング、自給自足  
 歩きやすいまちづくり、渋滞ゼロ  
 パンクムラ、まち歩き、公共スペース  
 土と木を元手に、CO2  
 と自然  
 はなす  
 子をつまみ食い、それ全部は



気が付けば脱炭素  
 見上げない街 京都

京都の脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。

京都のホンモノは無駄がない  
 京都は無理ない、緩いライフスタイル

京都のていねいな暮らしを  
 引き継ぐ  
 楽しく取り組む脱炭素

やりわくできる方法で  
 自由な発想で  
 信じるもの、守りたいもの、引き継ぐもの  
 京都の豊かさ、魅力 ↑ 2050  
 脱炭素 (個人・地域・企業)

京都の脱炭素  
 京都の脱炭素  
 京都の脱炭素

生きたい暮らし  
 (心も身体も自分にも、  
 環境にも良い暮らし)  
 を探求できる。

京都の脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。

脱炭素は目指さない。  
 豊かさのその先の結果が脱炭素。  
 大量に買って大量に捨てて  
 めんどくさく働いて... 疲れてないで済むか  
 少しくらい我慢して、捨てる  
 心が好罪悪感のない暮らし  
 脱炭素は、自然環境と文化の両方を活かすこと。

## 令和4年度京都市予算の説明

(脱炭素ライフスタイル推進事業：23,600千円)

# 京都市予算の説明

## 脱炭素ライフスタイル推進チームの成果の情報共有(予算:8,525千円)

①ポスター	ビジョンを市民や事業者に分かりやすく発信するため、イラストやキャッチコピーを使ったポスター・パンフレットを制作
②パンフレット	
③ホームページ	市民のライフスタイル転換をより効率的、効果的に促進するため、ターゲット層を明確にした専用ホームページを作製

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
脱炭素ライフスタイル推進チームの成果の情報共有						ビジョン構築						
①ポスター			← 作製 →				★ 広報					
②パンフレット								← 作製 →				★ 広報
③ホームページ			← 開設準備 →				★ HP開設	← コンテンツ追加 →				

# 京都市予算の説明

## 企業等連携によるプロジェクトの創出及び実証支援(予算:11,100千円)

- ・プロジェクト創出における, 実施に必要な情報収集, 専門家等とのマッチング等
- ・プロジェクト実施後の効果検証, 支援費(300千円)
- ・プロジェクトの内容や成果の発信
- ・コーディネーターの設置

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業等連携によるプロジェクトの創出及び実証支援							ビジョン構築					
プロジェクトの創出・実証	←											→
	先駆けプロジェクトの創出・実証											

## 市民ワークショップ等の開催(予算:3,975千円)

参加する市民の脱炭素ライフスタイルへの意識変革を促すとともに、主体的な関わりを誘発するため、以下ワークショップ等を開催

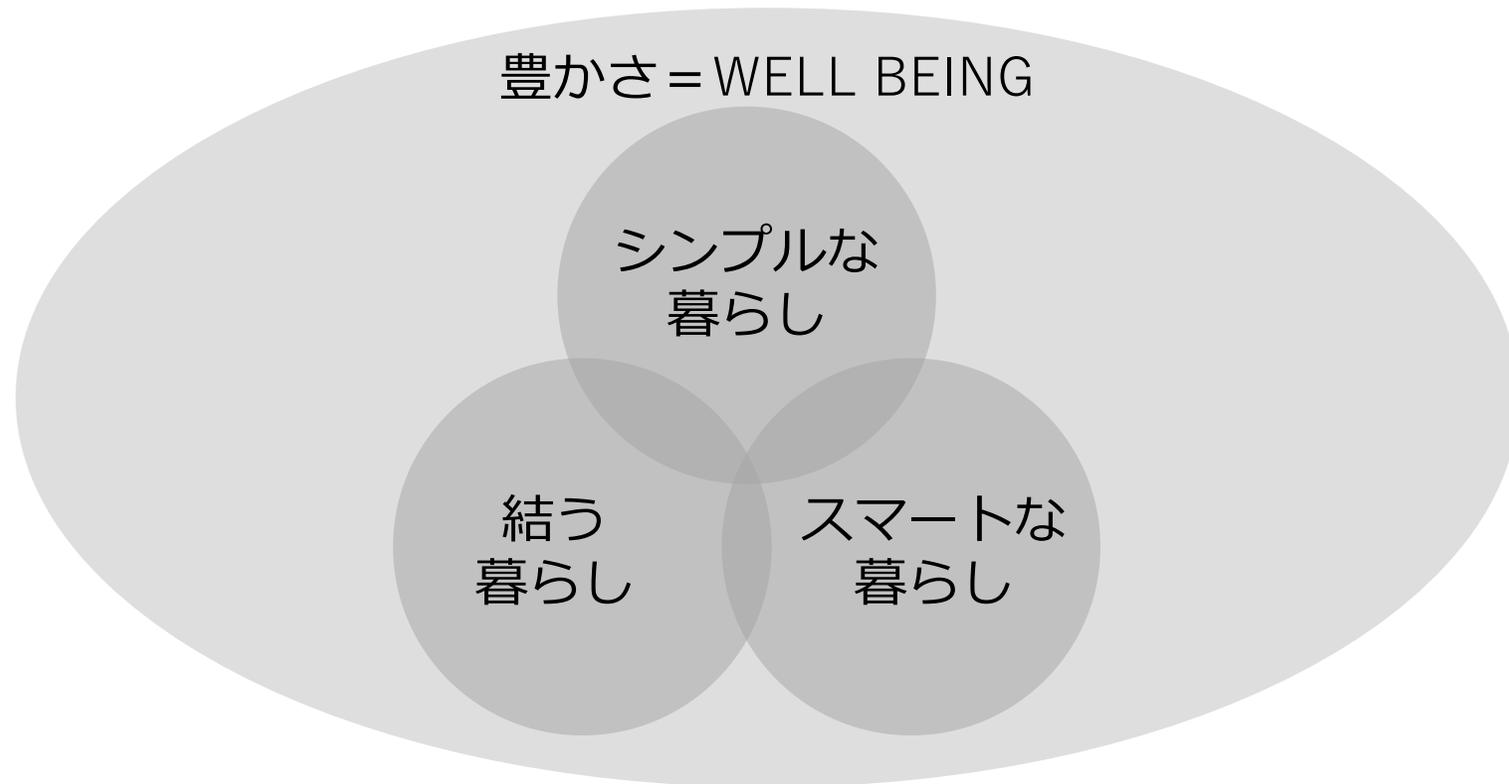
- ①ワークショップやアイデアソン
- ②市民ライター育成プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市民ワークショップ等の普及啓発の開催						ビジョン構築						
①市民ワークショップ等						← 市民ワークショップ, アイデアソンの開催 →						
②市民ライターの育成		← 育成内容等の企画検討 →			募集 ★	← 講習 →		← 取材・発信 →				

# ビジョン修正案・ビジョンイメージ図 について

# 2050年のビジョン(前回の案)

京都の自然と共生する文化やしまつの心を礎に  
多様なライフスタイルに対応したサステナブルな選択肢により  
カーボンニュートラルを実現している社会



# 前回の案

## シンプルな暮らし

**本当に必要で長く使える「ほんまもん」を愛し、モノのストーリーを大切にする、心地よい暮らしへ**

- ・適量生産・消費・資源循環型（しまつのこころ、足るを知る）の暮らし
- ・環境にも良いサステナブルな消費行動の主流化
- ・モノやモノのストーリーを共有する「顔の見える関係」の構築
- ・食べ物や植物の旬産旬消・地産地消
- ・必要なモノを美味しく分かち合う“幸せな食卓”の拡大

## スマートな暮らし

**テクノロジーと京都の知恵に支えられた高効率で快適な暮らしへ**

- ・家や家電、移動手段、エネルギーなどがカーボンニュートラルな暮らしにシフト
- ・木の温もりを感じ、京都の森を守り育てる住まい
- ・心と体の健康・安全が保たれている暮らし
- ・歴史や文化・伝統の持つ力で彩る暮らし

## 結う暮らし

**地域のコミュニティや世代間、自然資本とつながることで安心を取り戻す暮らしへ**

- ・緩やかなつながりにより支え合い、地域課題×環境課題をシェアして解決することが、豊かさにつながる暮らし
- ・複業・多業や二地域・他地域居住など都市部と山間部との行き来が、地域の元気にもつながる暮らし
- ・自然に感謝し、地域の自然資源を活用した伝統文化や地域の祭りなどの継承、地域の魅力の向上
- ・環境課題解決型ビジネスに取り組む中小企業・スタートアップ・NPO等が集積するエコシステム
- ・地域・環境課題の解決に向けた、担い手育成や雇用の拡大
- ・地域内で循環する地域経済モデルの構築
- ・地域や多世代ぐるみで取り組む環境教育

# 【参考】これまで京都で培われてきたこと

## ①消費行動

ていねいな暮らし

**ごみをなるべく出さず，京都でとれた食材を消費するなど，ていねいな暮らしを美德としてきた。**

【キーワード】

おばんざい，風呂敷，着物の着回し，足るを知る・しまつの精神



# 【参考】これまで京都で培われてきたこと

②住まい

スマートな暮らし

京都の風土に合った暮らしの知恵を生み出し、時代に合ったものを取り入れながら、伝統文化や技術を継承してきた。

【キーワード】

盆地特有の気候に適応した町家の生活、木や木製品に触れる暮らし、打ち水など自然をうまく利用しつつ暮らしを快適にする工夫・知恵、進取の気風

# 【参考】これまで京都で培われてきたこと

③つながり

結う暮らし

**地域の人とつながり，自然と寄り添う暮らしを大切にしてきた。**

【キーワード】

番組小学校，「竈（かまど）金の精神」，地蔵盆，祇園祭



京都の自然と共生する文化やしまつのことを礎に  
一人ひとりがライフスタイルに合った持続可能な暮らしを選択し、  
カーボンニュートラルを実現している社会

豊かさ = WELL BEING

ていねいな  
暮らし

結う  
暮らし

スマートな  
暮らし

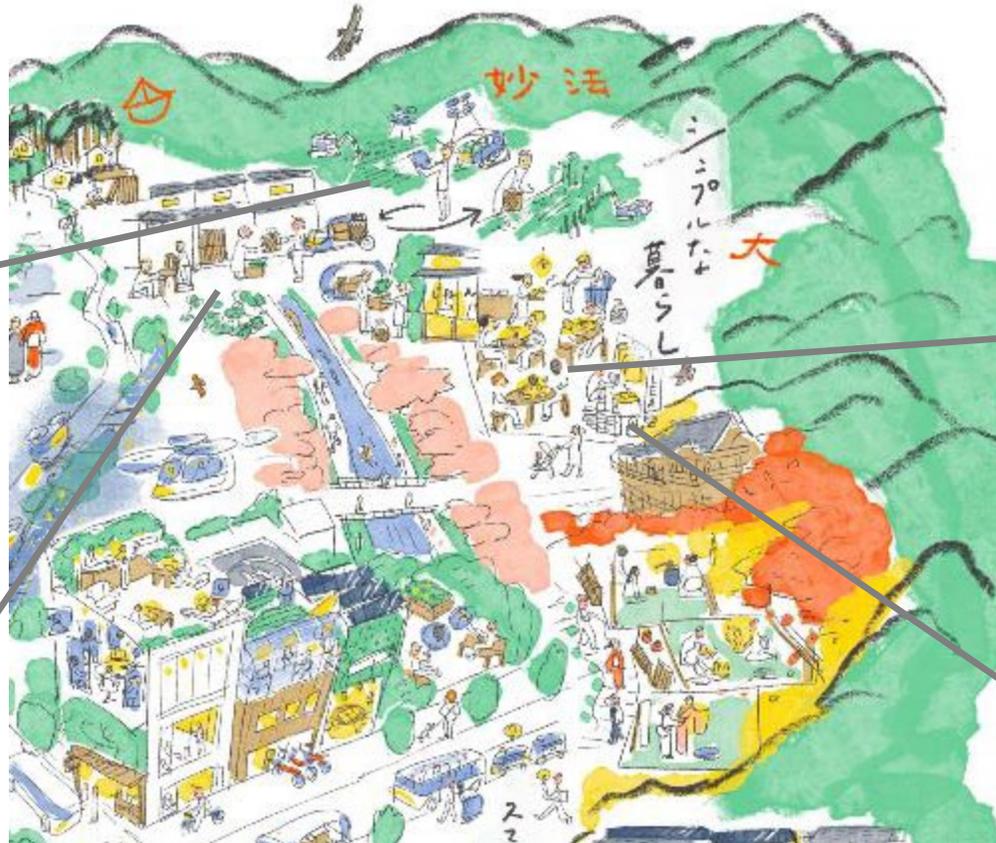


# (修正案)ていねいな暮らし

## 必要で長く使える「ほんまもん」を愛し，モノのストーリーを大切に する，心地よい暮らしへ

「もったいない」「しまつの  
ところ」の精神が息づく，  
サーキュラーエコノミーで，  
モノを大切にする暮らし

作り手と使い手がつながり，  
人も地域も豊かにする消費



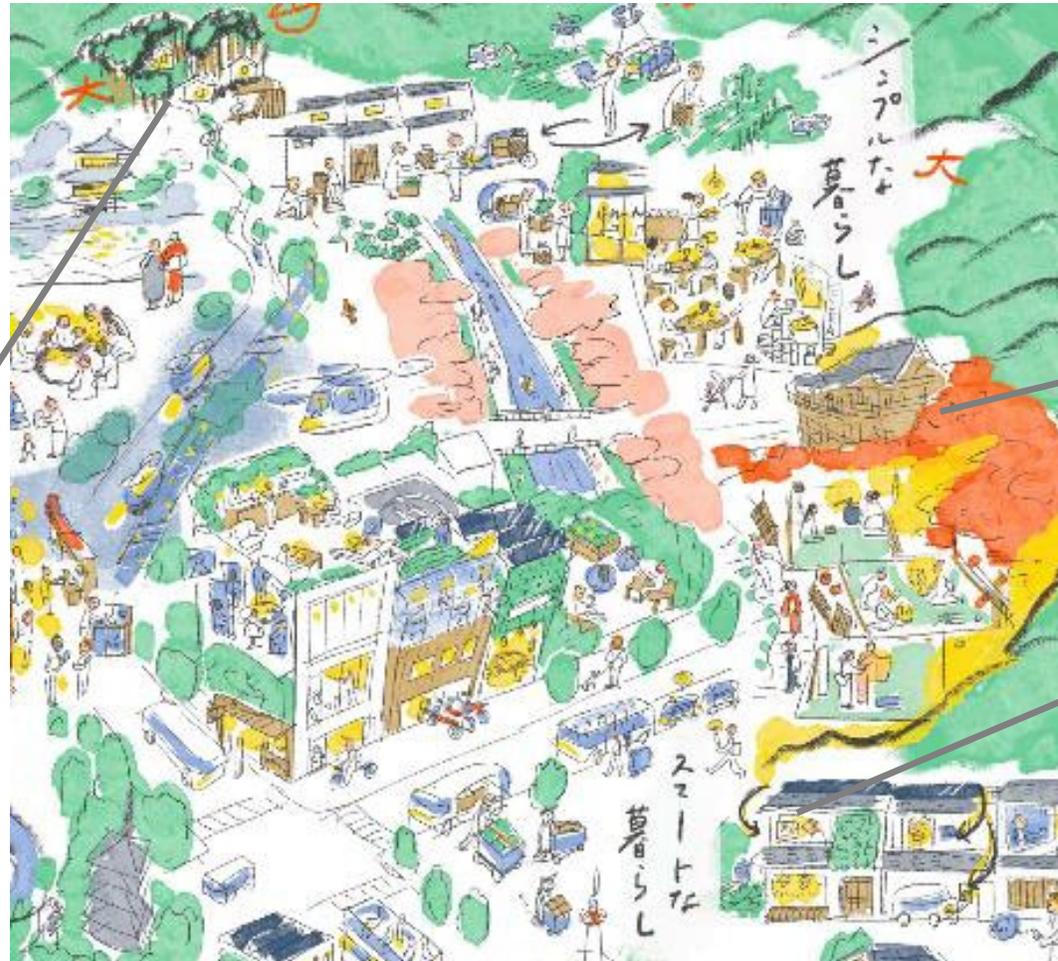
京野菜をはじめ，旬の地元食材  
を利用した，野菜中心の健康的  
な京の食文化

再生可能資源やシェアリング  
など，環境負荷が小さいもの  
やサービスが当たり前

ビジョンイメージ ～ていねいな暮らし～

## テクノロジーと京都の知恵に支えられた高効率で快適な暮らしへ

木の温もりを感じ、京都の森を守り育てる住まい



自然と共生する知恵や文化、  
伝統で彩る暮らし

進取の気風を礎に、新たな技術や  
知恵を活かした、健康で快適な  
カーボンニュートラルな暮らし

ビジョンイメージ ～スマートな暮らし～

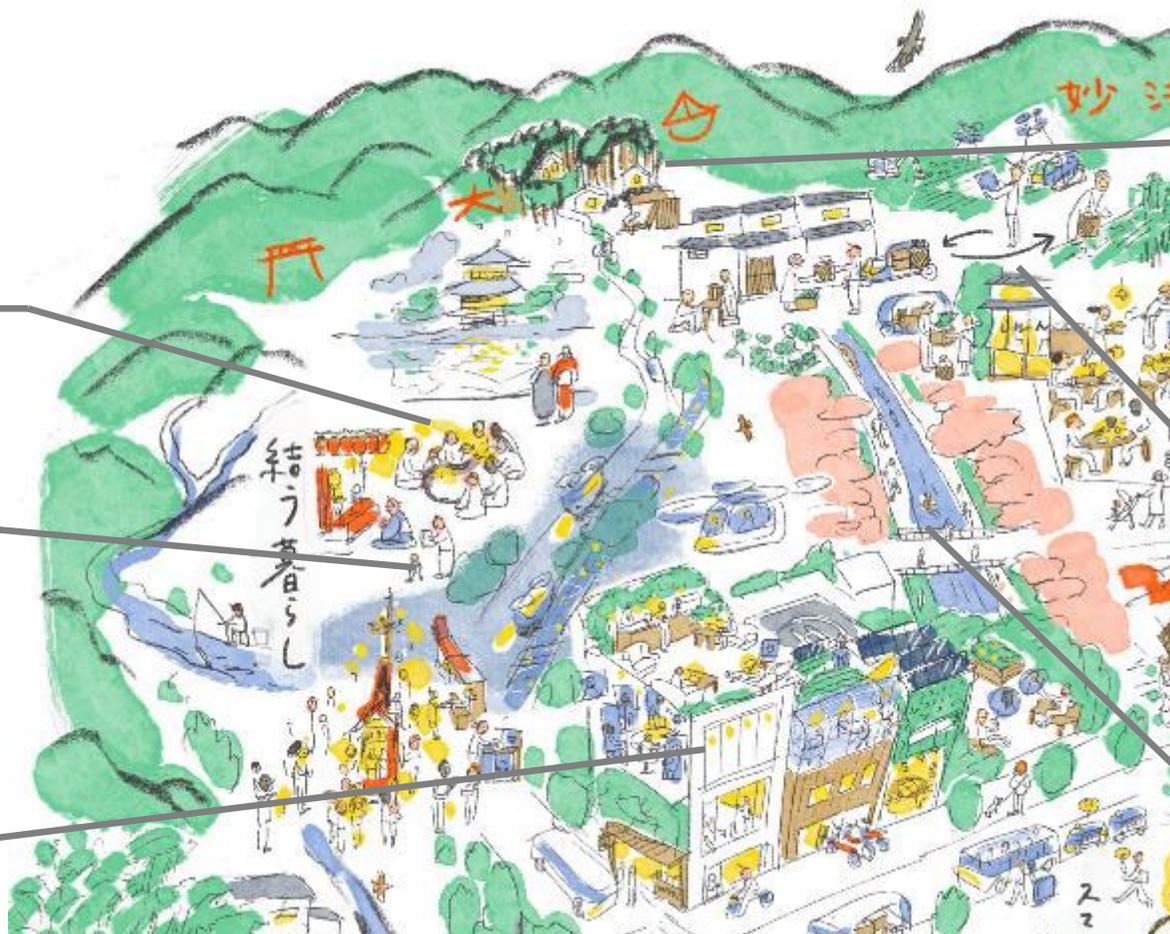
# (修正案)結う暮らし

## 自然に感謝し、地域や世代間でつながることで安心と豊かさを取り戻す暮らしへ

おかげさまの精神を礎に、  
地域課題×環境課題を  
シェアして解決

地域や多様な世代が学び  
合える暮らし

環境課題解決型ビジネス  
に取り組む企業や担い手  
が活躍する社会



都市部と山間部との行き来が、  
地域の元気にもつながる暮らし

ヒト・モノ・カネ・エネルギー  
が循環する地域経済モデルの  
構築

伝統文化とともに、地域の  
自然や豊かな恵みを守り、  
楽しむ暮らし

ビジョンイメージ ~結う暮らし~

# 本日のディスカッション(ビジョンキャッチコピー)

## 2050年のビジョン(修正案)

京都の自然と共生する文化やしまつのことを礎に  
一人ひとりがライフスタイルに合った持続可能な暮らしを選択し、  
カーボンニュートラルを実現している社会

豊かさ = WELL BEING

ていねいな  
暮らし

結う  
暮らし

スマートな  
暮らし

## ビジョン キャッチコピー

ビジョンを市民目線で分かりやすく表現し、  
市民の行動する際の指針となるキャッチコピー



↑ ロゴ化

ビジョンの修正案やイラストについて、ご意見をお願いします。

※イラストについては、皆様のご意見を踏まえて、次回までにブラッシュアップした案を制作します。

グループディスカッション  
(ビジョンキャッチコピー)

## (議題)

# ○市民にビジョンを目指して行動してもらおうためのキャッチコピー

- 皆様のご意見を踏まえて、次回までにキャッチコピー案を制作します。
- 本日の会議閉会后、各自で考えていただいたキャッチコピーを持った写真撮影を行います。
- 写真については、今後の発信に活用させていただきます。

(右イメージ)

※キャッチコピーに変更がある場合は、各自写真を撮影し、後ほど事務局まで送付をお願いします。(送付期限5月末)



キャッチコピー

## 第4回推進チーム会議

日時：7月14日（木）午後2時から午後4時30分（予定）

場所：KOIN（京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町7 8番地京都経済センター3階）

※オンラインと対面のハイブリット開催を予定しております。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる場合がございます。

### 次回の議題（予定）

#### ビジョン等のアウトプットまとめ

- ビジョンキャッチコピー, ロゴ
- ビジョンイラスト
- 2030年の目標・指標 など